Ⅰ．東北地方一級河川水質ランキング

◎「荒川(福島)」と「鮭川(山形)」が１位、「須川(山形)」が最下位！

東北地方の一級河川のうち、本ランキングの対象となる２４河川を水質（ＢＯＤ※1）が良い順に並べると表－１のとおりです。

なお、**１位は荒川(４年連続)と鮭川、最下位は須川(４年連続)**でした（BOD年平均値は、最大の河川でも2.0mg/Lであり、環境基準上はヤマメ・イワナ等が生息できるレベルの水質です）。

【条件】

■河川水質ランキングは、以下の条件を満たす河川を対象としています。

・一級河川本川：　国土交通大臣管理区間に調査地点注）が２つ以上ある河川。

・一級河川支川：　国土交通大臣管理区間の延長が概ね10km以上で、かつ調査地点注）が２つ以上ある河川。

注）湖沼類型指定、海域類型指定の調査地点は含まない。ダム貯水池は原則として調査地点に含まない。

■順位は、BOD(生物化学的酸素要求量)の年平均値を用いて、各河川毎に全ての調査地点を平均した値で評価します。なお、年平均値が同じ場合には75%値※2で評価しています。

表－１　ランキングとＢＯＤ

東北地方２４河川における順位		全国(165河川)における順位		調査地点の県名	水系名	河川名	BOD年平均値(mg/L)		BOD75%値(mg/L)	
H18	H17	H18	H17				H18	H17	H18	H17
→	**1**	**1**	**12**	**9**	**福島**	**阿武隈川**	**荒川**	**0.6**	**0.6**	**0.6**	**0.5**
↑	**1**	**3**	**12**	**31**	**山形**	**最上川**	**鮭川**	**0.6**	**0.7**	**0.6**	**0.7**
↓	3	2	31	26	秋田	雄物川	玉川	0.7	0.7	0.7	0.8
→	4	4	47	35	岩手	北上川	胆沢川	0.7	0.7	0.9	0.9
→	5	5	53	44	山形	赤川	赤川	0.8	0.8	0.9	0.9
→	5	5	53	44	岩手	北上川	和賀川	0.8	0.8	0.9	0.9
↑	5	7	53	53	宮城	北上川	江合川	0.8	0.8	0.9	1.0
↑	5	11	53	66	宮城	北上川	旧北上川	0.8	0.9	0.9	1.0
↑	5	14	53	83	青森	岩木川	平川	0.8	1.0	0.9	1.2
↓	10	9	72	60	宮城	名取川	名取川	0.9	0.9	1.0	0.9
↓	10	7	72	53	青森	馬淵川	馬淵川	0.9	0.8	1.0	1.0
↑	12	14	84	83	秋田	子吉川	子吉川	0.9	1.0	1.1	1.2
↓	12	11	84	66	宮城	鳴瀬川	鳴瀬川	0.9	0.9	1.1	1.0
↓	14	13	94	79	岩手	北上川	猿ヶ石川	1.0	1.0	1.1	1.1
→	14	14	94	83	岩手・宮城	北上川	北上川	1.0	1.0	1.1	1.2
↑	14	23	94	133	岩手	北上川	磐井川	1.0	1.5	1.1	1.6
↓	17	14	101	83	秋田	米代川	米代川	1.0	1.0	1.2	1.2
↓	18	9	108	60	宮城	名取川	笊川	1.1	0.9	1.1	0.9
→	19	19	110	110	青森	岩木川	岩木川	1.1	1.2	1.2	1.4
↓	20	18	113	98	秋田	雄物川	雄物川	1.1	1.1	1.3	1.3
→	21	21	129	127	山形	最上川	最上川	1.3	1.4	1.5	1.5
↓	22	19	141	110	宮城	鳴瀬川	吉田川	1.5	1.2	1.5	1.4
↓	23	22	143	128	福島・宮城	阿武隈川	阿武隈川	1.5	1.4	1.7	1.6
→	**24**	**24**	**157**	**148**	**山形**	**最上川**	**須川**	**2.0**	**1.7**	**2.3**	**1.9**

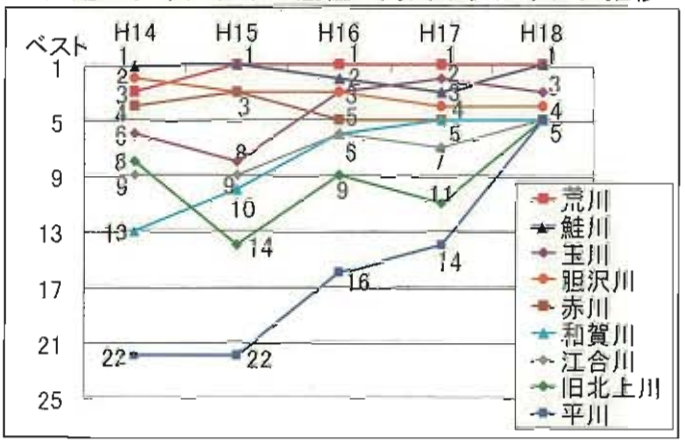
※1　「ＢＯＤ（生物化学的酸素要求量）」は、河川の水質を示す代表的指標で、値が大きいほど水質が汚れていることを示します。

※2　**「７５%値」**とは、月１回の水質測定で、年１２回分のデータがあったとした場合、そのデータを小さい順から並べ、１２回×０．７５≒９番目のデータの値を言います。河川が通常の状態（渇水でない）のデータ。（環境基準の満足状況の評価に用いる）

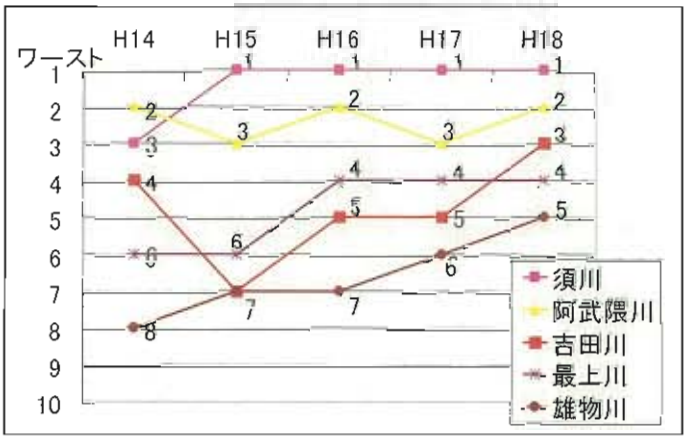
図－１　東北地方一級河川水質ランキング位置図



直近５ヶ年における上位５河川のランキング推移



直近５ヶ年における下位５河川のランキング推移



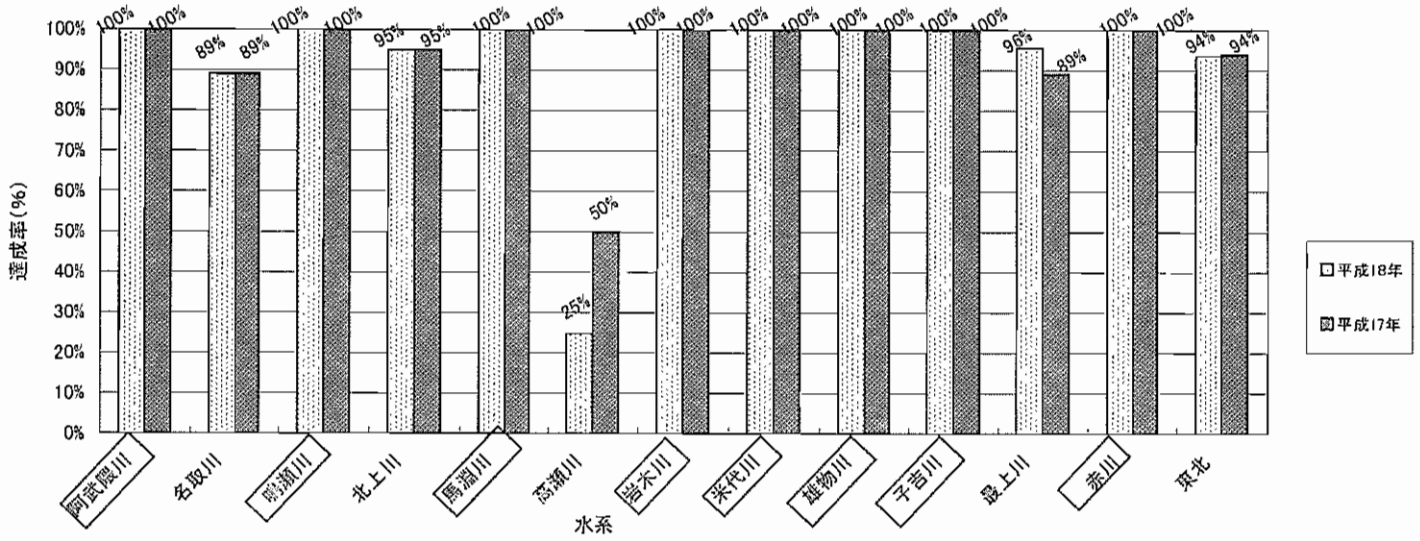
Ⅱ．水質調査の結果

◎環境基準※2（ＢＯＤ又はＣＯＤ※1）を満足※3している地点の割合は９４％！
全地点が環境基準を満足している水系は１２水系中８水系！

類型指定※4されている区間内には水質調査地点が１５６地点ありますが、環境基準の代表的な水質指標である**ＢＯＤ又はＣＯＤを満足した地点数の割合は約９４％（１５６地点中１４６地点で満足）**でした。**満足している割合は前年と同様**でした。

水系別の満足地点数の割合は図－２のとおりで、**阿武隈川、鳴瀬川、馬淵川、岩木川、米代川、雄物川、子吉川、赤川の８水系**では、**全調査地点で環境基準値を満足**しました。

前年より**満足した割合が増加**した河川は、**最上川**でした。逆に、前年より**満足した割合が減少**した河川は、**高瀬川**（Ｐ１２参照）でした。



図－２　水系別満足地点の割合

※１　「ＣＯＤ（化学的酸素要量）」は、ダムや湖沼等の水質を示す代表的指標で、値が大きいほど水質が汚れていることを示します。

※２　「環境基準」は、川の一定の区間及びダム・湖沼で、望ましい水質の目標を定めた値。

●河川における類型別環境基準は以下のとおりである。

ＡＡ類型	ＢＯＤ　1mg/l以下	Ｂ類型	ＢＯＤ　3mg/l以下	Ｄ類型	ＢＯＤ　8mg/l以下
Ａ類型	ＢＯＤ　2　〃	Ｃ類型	ＢＯＤ　5　〃	Ｅ類型	ＢＯＤ10　〃

●ダム・湖沼における類型別環境基準は以下のとおりである。

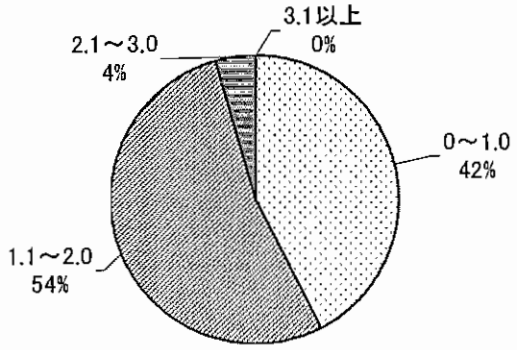
ＡＡ類型	ＣＯＤ　1mg/l以下	Ｂ類型	ＣＯＤ　5mg/l以下
Ａ類型	ＣＯＤ　3　〃	Ｃ類型	ＣＯＤ　8　〃

※３　**「環境基準を満足」**とは、環境基準を定めた河川の区間で、代表する地点（環境基準点）の水質の測定値が、目標とする環境基準の値を満足しているかで判断します。一般に河川ではＢＯＤ７５％値、ダム・湖沼ではＣＯＤ７５％値で判断します。

※４　「類型指定」とは、生活環境項目の環境基準を定めた河川の区間、又はダム・湖沼で、目標とするＢＯＤ、ＣＯＤを当てはめたもので、類型の種類は上記※２がある。

◎全河川がサケやアユの生息に適するレベルの水質（BOD3mg/L 以下）！

東北地方の全ての一級河川（国土交通大臣管理区間）におけるＢＯＤ（生物化学的酸素要求量）７５％値の平均は約１．２mg/L、最大は３．０mg/L であり、**全地点でサケやアユの生息に適した水質**レベルとなっています。［図－３］



図－３　ＢＯＤ値ランク別割合

●ＢＯＤ２mg/L 以下：　ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産２級及び水産３級の水産生物用
●ＢＯＤ３mg/L 以下：　サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産３級の水産生物用
●ＢＯＤ５mg/L 以下：　コイ、フナ等、β－中腐水性水域の水産生物用

◎健康項目は、環境基準をほぼ満足！

「人の健康の保護に関する環境基準」２６項目※1のうち、平成１８年は**１２水系１３１地点７，０４６検体を調査し、砒素が１地点、鉛が１地点で超過**※2した以外はすべて環境基準を満足しました。

超過した砒素及び鉛は、温泉等の地質由来のもので、表－２の地点で環境基準を満足しませんでした。（２地点の下流では環境基準を満足しており、影響等は生じておりません。）

表－２　環境基準超過地点

超過項目	地点名			分析値（年平均）(mg／L)	環境基準値 (mg／L)	原因
	水系名	河川名	地点名			
砒素	北上川	大深沢	大深沢（宮城県鳴子町）	0.023	0.01以下	地質由来自然湧出（温泉等）
鉛	雄物川	玉川	玉川ダム（秋田県田沢湖町）	0.019	0.01以下	

※１　「健康項目」：　カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、ＰＣＢ、ジクロロメタン、四塩化炭素、1，2－ジクロロエタン、1，1－ジクロロエチレン、シス－1，2－ジクロロエチレン、1，1，1－トリクロロエタン、1，1，2－トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1，3－ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素

※２　「砒素」及び「鉛」の「環境基準値」は0.01mg/Lで、年間の平均値をもって評価します。

◎要監視項目は、全地点で指針値を満足！

要監視項目※は、人の健康の保護に関連する項目で、現時点では環境基準項目となっておらず、環境基準値は定められていません。その代わりに、指針値という形で示されており、その値で評価しています。

平成１８年は**７水系２８地点３２１検体を調査し、いずれも指針値を満足**しました。

※「要監視項目」：　クロロホルム（トリクロロメタン）、トランス-1,2-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロプロパン、p-ジクロロベンゼン、イソキサチオン、ダイアジノン、フェニトロチオン、イソプロチオラン、オキシン銅、クロロタロニル、プロピザミド、ＥＰＮ、ジクロルボス、フェノブカルブ、イプロベンホス、クロルニトロフェン、トルエン、キシレン、フタル酸ジエチルヘキシル、ニッケル、モリブデン、アンチモン

◎農薬項目は、全地点で指針値を満足！

平成２年に環境庁（現環境省）で「ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止に係る暫定指導指針」がまとめられ、項目と指針値が示されています。

国土交通省は、河川でこれらの項目の水質調査を実施した結果、農薬に関する４５項目のうち、平成１８年は**１２水系６６地点８０３検体を調査し、いずれも指針値を満足**しました。

◎ダイオキシンは、全地点で環境基準を満足！

平成１８年度における東北の一級河川において、ダイオキシン類※1を調査※2した結果、**１２水系２６地点全てで環境基準を下回っています。**

※１：　主にゴミの焼却や化学物質の合成時に生成される有機塩素化合物で、一般にポリ塩化ジベンゾーパラ－ジオキシン（PCDD）と、ポリ塩化ジベンゾフラン（PCDF）をまとめてダイオキシン類と呼び、コプラナーポリ塩化ビフェニル（ｺﾌﾟﾗﾅｰPCB）のようなダイオキシン類と同様の毒性を示す物質をダイオキシン類似化合物と呼んでいます。ダイオキシン類対策特別措置法においては、PCDD及びPCDFにｺﾌﾟﾗﾅｰPCBを含めて「ダイオキシン類」と定義されました。

※２：　この調査は、平成１２年１月１５日に「ダイオキシン類対策特別措置法」が施行されたことを踏まえ、国土交通省では一級河川直轄管理区間のダイオキシン類濃度の実態把握を目的に水質と底質の調査を行っています。

◎環境ホルモンは、全地点で重点監視濃度以下！

平成１８年度における東北の一級河川において、環境ホルモン（正式名称「内分泌かく乱物質※1」という。）として疑いのある物質について、水質８項目※2および底質１項目※3を調査した結果、**１０水系１４地点全てで重点監視濃度※4を下回り**ました。

現在、環境ホルモンについては、環境基準が無いことから、今回の調査結果について問題があるかどうかの判断はできません。しかしながら、将来的な対策等のため、データの蓄積を図る必要があることから、引き続き、水系１地点以上という原則等を考慮し、それまでの調査結果を基に効率化・重点化を図りながら、重点監視地点となっている箇所は毎年、その他の箇所は３年から６年サイクルで監視を継続していきます。

※１　「内分泌かく乱物質」：　動物の生体内に取り込まれた場合に本来その生体内で営まれている正常なホルモン作用に影響を与える外因性物質。

※２　「水質調査項目」：　4－t－ｵｸﾁﾙﾌｪﾉｰﾙ、ﾉﾆﾙﾌｪﾉｰﾙ、ﾌﾀﾙ酸ｼﾞ－n－ﾌﾞﾁﾙ、ﾋﾞｽﾌｪﾉｰﾙA、ﾌﾀﾙ酸ｼﾞ－2－ｴﾁﾙﾍｷｼﾙ、ｱｼﾞﾋﾟﾝ酸ｼﾞ－2－ｴﾁﾙﾍｷｼﾙ、ｴｽﾄﾛﾝ、17β－ｴｽﾄﾗｼﾞｵｰﾙ

※３　「底質調査項目」：　ﾍﾞﾝｿﾞ(a)ﾋﾟﾚﾝ

※４　「重点調査濃度」：　重点的な調査を実施するか否かの判断基準として、国土交通省河川局が独自に設定したものです。

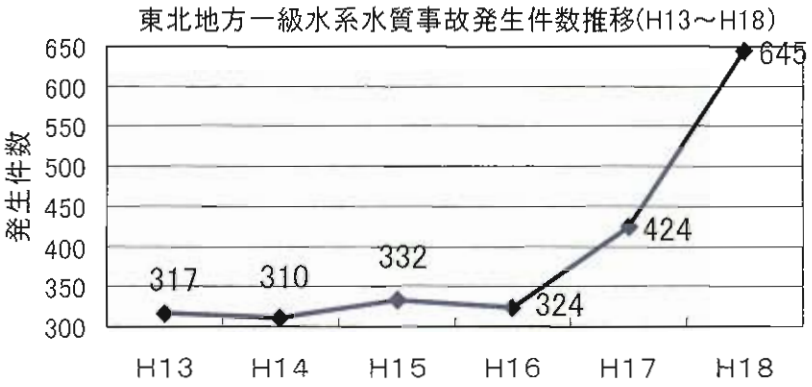
Ⅲ. 水 質 事 故 発 生 状 況

◎水質事故の全件数は年間６４５件発生（前年より約５割増加）！
特に冬期間（１～３月）に多数発生！

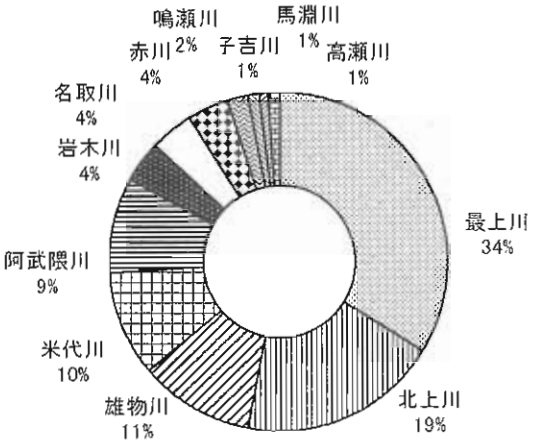
平成１８年１月から１２月までに、河川に対して影響を与えるおそれがある水質事故は、３３６件発生しました。このうち、２２件で一時的に取水を停止していますが、住民生活への影響等はありませんでした。その他の水質事故は、水質汚濁対策連絡協議会の関係機関等の対応により、重大な事故には至りませんでした。

なお、結果として**河川に流入しなかったものまで含めた全件数**は、**近年では最多の６４５件**の情報が東北地方整備局に寄せられました（平成１７年に比べ**約５割の増加**）［図－４］。特に冬期間の給油中の事故が多くなっており、豪雪・低温であったことも要因と考えられます。

水系別では、最上川、北上川、雄物川の順に多くなっています［図－５］。



図－４　水質事故発生状況

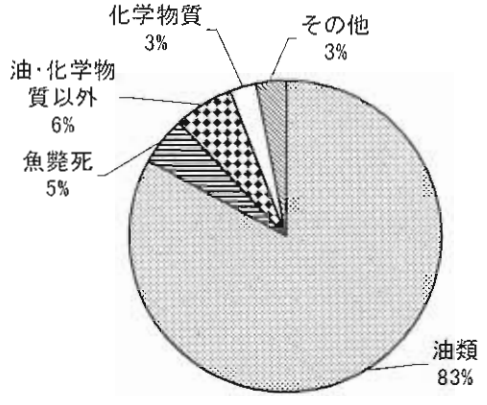


図－５　水系別水質事故発生状況

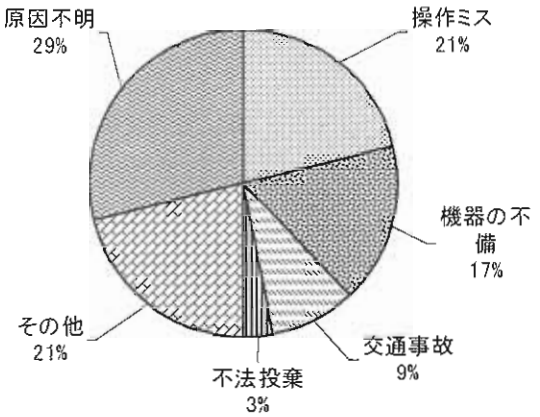
◎水質事故の原因は９割が油の流出、４割が人為的なミス！

原因物質別でみると、**油の流出事故が最も多く、全体の約８割**を占めました［図－６］。

原因別にみると、操作ミスと機器の不備を合わせた**人為的な不注意によるミスが全体の約４割**を占めました［図－７］。



図－６　事故種類別発生状況



図－７　事故原因別発生状況

Ⅳ．新しい水質指標による調査結果

◎〝顔を川の水につけやすい 又は 川の中に入って遊びやすい〟地点は４割！
〝生物の生息等の環境として非常に良好 又は 良好〟な地点は８割！
〝より利用しやすい水質（水道水）〟と評価された地点は９割！

水質を従来のＢＯＤだけではなく、様々な視点から評価するための**「新しい水質指標」を定め、平成１７年から新たに調査を実施**しています。

新しい水質指標は、以下の３つの視点から定めています。

① 人と河川の豊かなふれあい （表－３）
② 豊かな生態系 （表－４）
③ 利用しやすい水質 （表－５）

このうち、表－３の「ゴミの量」、「透視度※1」、「川底の感触」、「水のにおい」並びに表－４の「水生生物の生息」は、住民と協働調査を実施し、その他の項目（「糞便性大腸菌群数」など）は、河川管理者が調査を実施しました。

調査結果は各地点において項目毎にランク付けし、総合評価は最も評価が低い項目のランクを基に決定しています。

○「人と河川の豊かなふれあい」の調査結果

- **１２水系２７地点**で調査を実施。**住民協働調査に２３団体、４５５人**が参加。
- 総合評価は、「**Ａランク**（顔を川の水につけやすい）」**が１地点（米代川）**、「**Ｂランク**（川の中に入って遊べる）」**が１０地点**、「**Ｃランク**（川の中に入れないが川に近づくことができる）」**が１６地点**、「Ｄランク」はありませんでした［図－８］。
- 本調査結果と**ＢＯＤとの関係には整合性が見られません**でした。**Ｂ又はＣランク**の地点では、**主に「透視度」や「糞便性大腸菌群数」の評価が低く**なっています。

表－３ 人と河川とのふれあいの調査項目と評価レベル

ランク	説明	ランクのイメージ	項目と評価レベル				
			ゴミの量	透視度（cm）	川底の感触	水のにおい	糞便性大腸菌群数（個／100L）
A	顔を川の水につけやすい		川の中や水際にゴミは見あたらない。または、ゴミがあるが全く気にならない。	100以上	不快感がない	不快でない	100以下
B	川の中に入って遊びやすい		川の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる。	70以上	ところどころヌルヌルしているが、不快ではない		1000以下
C	川の中に入れないが川に近づくことができる		川の中や水際にゴミがあって不快である。	30以上	ヌルヌルしており、不快である	水に鼻を近づけて不快な臭いを感じる。風下の水際に立つと不快な臭いを感じる。	1000を超えるもの
D	川の水に魅力がなく、川に近づきにくい		川の中や水際にゴミがあって、とても不快である。	30未満		風下の水際に立つと、とても不快な臭いを感じる。	

※「透視度」：水の濁り具合を示す指標で、値が大きいほど濁りが少ない。
※「糞便性大腸菌群数」：人や動物の排泄物に由来する大腸菌群により、水の汚染状況を調べる指標。

○「豊かな生態系」の調査結果

- １０水系２６地点で調査を実施。住民協働調査に２７団体、５３７人が参加。
- 総合評価の「Ａランク（生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好）」が１８地点、「Ｂランク（良好）」が３地点、「Ｃランク（良好とはいえない）」が５地点（雄物川、子吉川、広瀬川、阿武隈川）、「Ｄランク」はありませんでした［図－９］。
- ＢＯＤが良い河川は概ねＡランクとなっています。Ｂ又はＣランクの地点では「水生生物の生息」の評価が低くなっています。

表－４　豊かな生態系の調査項目と評価レベル

ランク	説明	項目と評価レベル		
		DO（mg／L）	NH4-N（mg／L）	水生生物の生息
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7以上	0．2以下	Ⅰ　きれいな水 ・カワゲラ ・ナガレトビゲラ　等
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5以上	0．5以下	Ⅱ　少し汚い水 ・コガタシマトビゲラ ・オオシマトビゲラ　等
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	3以上	2．0以下	Ⅲ　汚い水 ・ミズムシ ・ミズカマキリ　等
D	生物の生息・生育・繁殖しにくい	3未満	2．0を超えるもの	Ⅳ　大変汚い水 ・セスジユスリカ ・チョウバエ　等

※「DO」：水生生物が生きていくうえで不可欠な水中の酸素量。
※「NH4-N」：水生生物に影響を与える毒性を評価する指標。

○「利用しやすい水質（水道水）」の調査結果

- ９水系１７地点で調査を実施。
- 総合評価の「Ａランク（より利用しやすい）」が１５地点、「Ｂランク（利用しやすい）」が２地点（鳴瀬川、阿武隈川）、「Ｃランク」はありませんでした［図－１０］。
- ほとんどの河川がＡランクとなっていますが、Ｂランクの地点では「ＮＨ4－Ｎ」の評価が低くなっています。

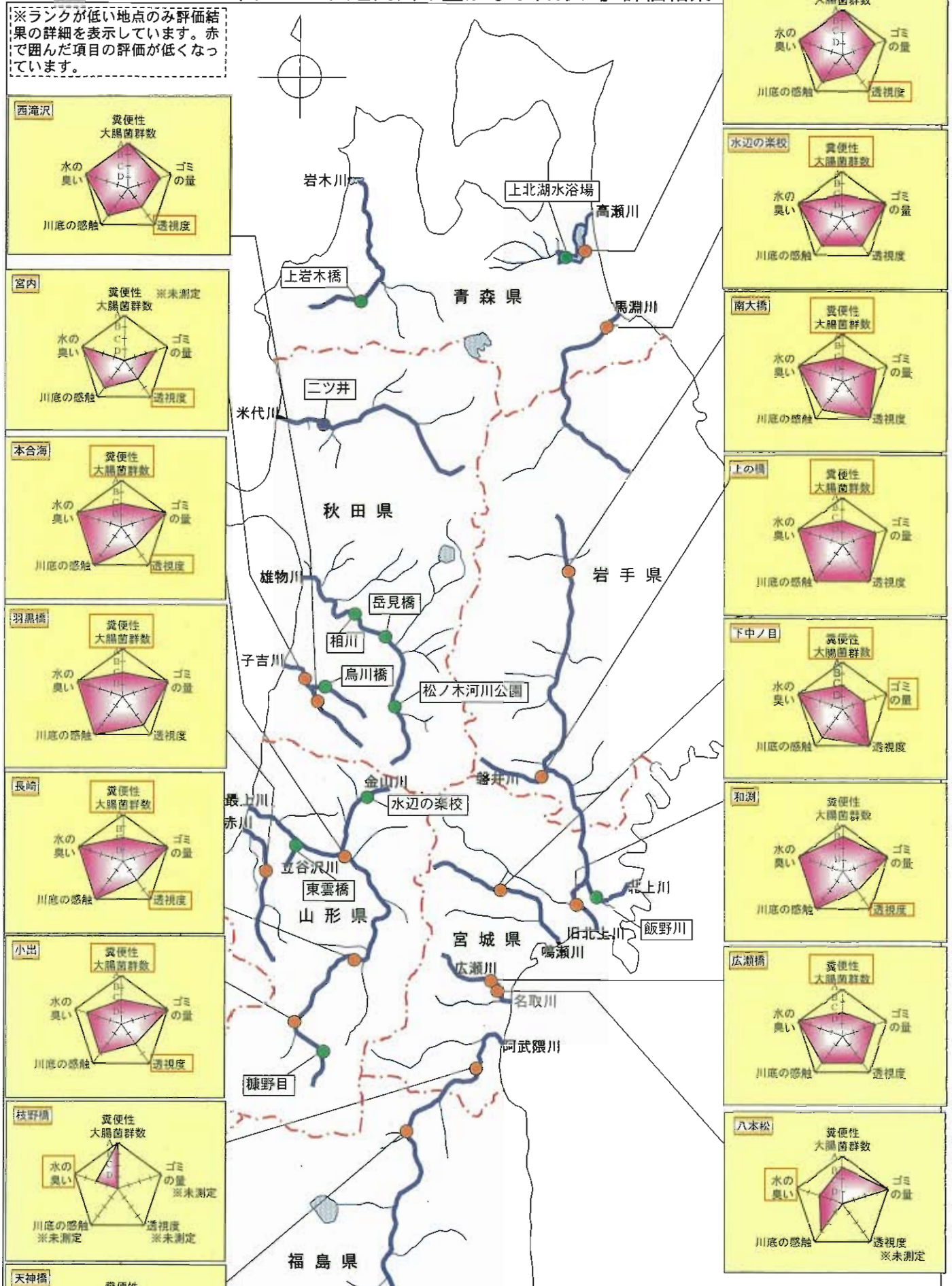
表－５　利用しやすい水質の調査項目と評価レベル

ランク	説明	評価項目と評価レベル			
		安全性	快適性		維持管理性
		トリハロメタン生成能（μg/L）	2－ＭＩＢ（ng/L）	ジオスミン（ng/L）	NH_4－Ｎ（mg/L）
A	より利用しやすい	100以下	5以下	10以下	0．1以下
B	利用しやすい		20以下	20以下	0．3以下
C	利用するためには高度な処理が必要	100を超えるもの	20を超えるもの	20を超えるもの	0．3を超えるもの

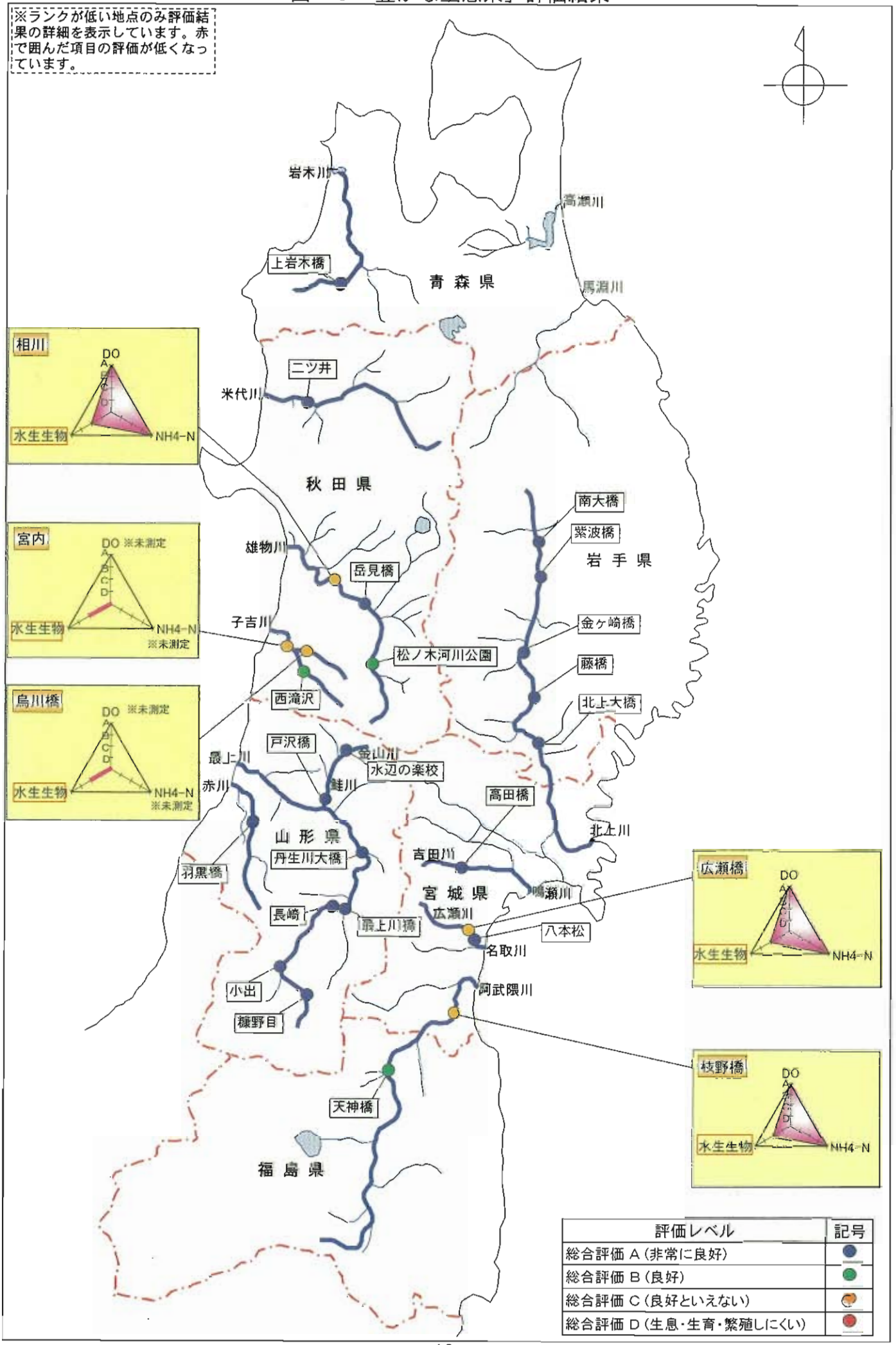
※「トリハロメタン生成能」：トリハロメタン（発ガン性有り）の潜在的な生成量を示す項目で、水の安全性を評価する指標。
※「2－MIB」、「ジオス ミン」：カビ臭に関連する項目で、水の臭いや味覚を評価する指標。
※「NH4-N」：NH4-N が多いと多量の塩素が必要となるため、水道水としての維持管理性等を評価する指標。

図－８「人と河川の豊かなふれあい」評価結果

※ランクが低い地点のみ評価結果の詳細を表示しています。赤で囲んだ項目の評価が低くなっています。

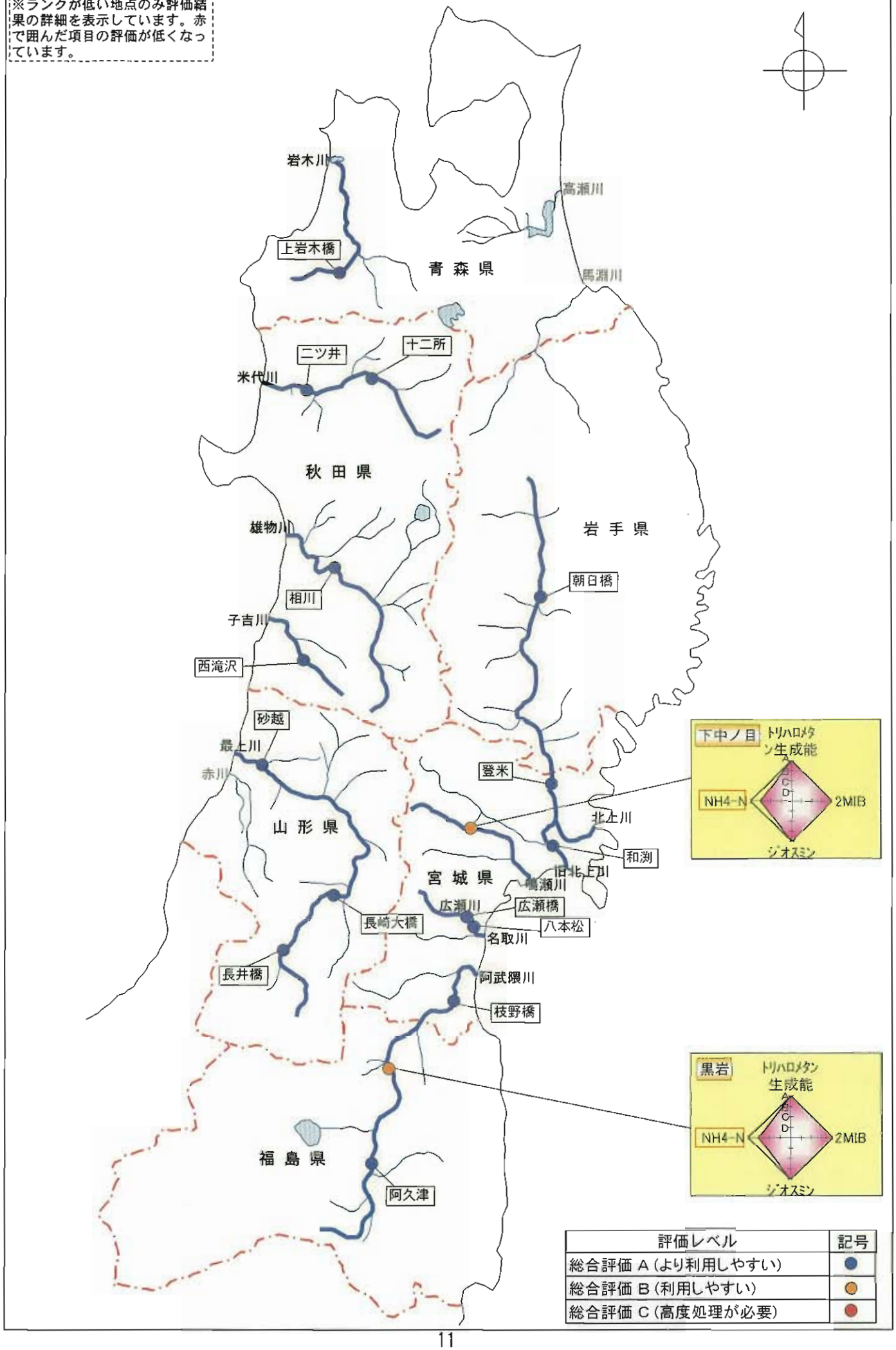


図－９「豊かな生態系」評価結果



図－１０「利用しやすい水質」評価結果

※ランクが低い地点のみ評価結果の詳細を表示しています。赤で囲んだ項目の評価が低くなっています。



評価レベル	記号
総合評価 A（より利用しやすい）	●
総合評価 B（利用しやすい）	●
総合評価 C（高度処理が必要）	●

V. 各県別概要

◎青森県内の調査結果概要（岩木川水系、馬淵川水系、高瀬川水系）

○ **馬淵川と岩木川は、全地点で環境基準(BOD)を満足。**
高瀬川は環境基準(COD)を満足した地点が大幅に減少。
○ **岩木川本川は“水質ランキング”の下位**にランク（Ｐ１参照）
○ 平成17年に比べて**水質事故が3割増加。特に岩木川では6割増加。**

【環境基準の満足状況】（ＢＯＤ、ＣＯＤ７５％値）

	観測地点数	満足地点数	満足している割合		環境基準超過地点
			Ｈ１８	Ｈ１７	
青森県全体	２７	２１	７０％	８５％	
岩木川	１６	１６	１００％	１００％	
馬淵川	3	3	１００％	１００％	
高瀬川 (小川原湖)	8	2	２５％	５０％	小川原湖No.A、No.C、No.G、No.H、高瀬橋、河口

【水質事故発生状況】
・青森県全体・・３８件（Ｈ１７：３０件）（東北全体の６％）
・岩木川・・・・２８件（Ｈ１７：１８件）
・馬淵川・・・　７件（Ｈ１７：　７件）
・高瀬川・・・・　４件（Ｈ１７：　５件）

◎岩手県の調査結果概要（北上川水系）

○ **河川は全地点で環境基準(BOD)を満足**しているが、**ダム湖は石淵ダムが環境基準(COD)を超過**
○ **胆沢川と和賀川が“水質ランキング”の上位**にランク。昨年下位にランクされた**磐井川は水質がやや改善**（Ｐ１参照）。
○ 平成17年に比べて**水質事故が3割増加**

【環境基準の満足状況】（ＢＯＤ、ＣＯＤ７５％値）

	観測地点数	満足地点数	満足している割合		環境基準超過地点
			Ｈ１８	Ｈ１７	
北上川(県内)	３０	２９	９７％	９７％	石淵ダム

【水質事故発生状況】
・９６件（Ｈ１７：７２件）（東北全体の１５％）

◎宮城県内の調査結果概要（北上川水系、阿武隈川水系、名取川水系、鳴瀬川水系）

○　河川は全地点で環境基準(BOD)を満足しているが、ダム湖は鳴子ダムと釜房ダムが環境基準(COD)を超過
○　北上川水系江合川支流の大深沢で、砒素が環境基準を超過（Ｐ４参照）
○　鳴瀬川水系吉田川は“水質ランキング”の下位にランク（Ｐ１参照）
○　平成17年に比べて水質事故が４割増加。特に名取川で大幅に増加。

【環境基準の満足状況】（ＢＯＤ、ＣＯＤ７５％値）

	観測地点数	満足地点数	満足している割合		環境基準超過地点
			Ｈ１８	Ｈ１７	
宮城県全体	３３	３０	９４％	９４％	
北上川(県内)	１１	１０	９１％	９０％	鳴子ダム
阿武隈川(県内)	6	6	１００％	１００％	
名取川	9	8	８９％	８９％	釜房ダム
鳴瀬川	7	7	１００％	１００％	

【水質事故発生状況】
・宮城県全体・・７５件（Ｈ１７：５２件）（東北全体の１２％）
・北上川・・・・２９件（Ｈ１７：２６件）
・阿武隈川・・・　９件（Ｈ１７：　６件）
・名取川・・・・２４件（Ｈ１７：　４件）
・鳴瀬川・・・・１３件（Ｈ１７：１６件）

◎秋田県内の調査結果概要（雄物川水系、米代川水系、子吉川水系）

○　県内各河川の水質(BOD)は、全地点で環境基準を満足
○　雄物川水系玉川で、鉛が環境基準を超過（Ｐ４参照）
○　玉川が“水質ランキング”の上位にランク（Ｐ１参照）
○　平成17年に比べて水質事故が２倍に増加
○　新しい水質指標の“人とのふれあい”で、米代川の二ツ井地点が東北地方では唯一「Ａランク(顔を川の水につけやすい)」に評価（Ｐ７参照）

【環境基準の満足状況】（ＢＯＤ７５％値）

	観測地点数	満足地点数	満足している割合		環境基準超過地点
			Ｈ１８	Ｈ１７	
秋田県全体	２６	２６	１００％	１００％	
雄物川	１４	１４	１００％	１００％	
米代川	7	7	１００％	１００％	
子吉川	4	4	１００％	１００％	

【水質事故発生状況】
・秋田県全体・・１３７件（Ｈ１７：６４件）（東北全体の２１％）
・雄物川・・・・　６６件（Ｈ１７：３７件）
・米代川・・・・　６３件（Ｈ１７：２３件）
・子吉川・・・・　　８件（Ｈ１７：　４件）

◎山形県内の調査結果概要（最上川水系、赤川水系）

○ **最上川**では**1地点（村山野川）が環境基準(BOD)を超過。**
赤川では**全地点で環境基準(BOD)を満足。**
○ **最上川水系須川が4年連続で“水質ランキング”の最下位。**
最上川水系鮭川が1位、赤川本川は上位にランク（Ｐ１参照）。
○ 平成17年に比べて**水質事故が4割増加。**
特に**最上川では東北地方で最多の220件（東北全体の水質事故の約3割）**が発生。

【環境基準の満足状況】（ＢＯＤ、ＣＯＤ７５％値）

	観測地点数	満足地点数	満足している割合		環境基準超過地点
			Ｈ１８	Ｈ１７	
山形県全体	２８	２７	９６％	９１％	
最上川	２３	２２	９６％	８９％	舟戸橋(村山野川)
赤川	5	5	１００％	１００％	

【水質事故発生状況】
・山形県全体・・２４８件（Ｈ１７：１７３件）（東北全体の３８％）
・最上川・・・・２２０件（Ｈ１７：１６２件）（東北全体の３４％）
・赤　川・・・・　２８件（Ｈ１７：　１１件）

◎福島県内の調査結果概要（阿武隈川水系）

○ **阿武隈川の全地点で環境基準(BOD)を満足**
○ **阿武隈川水系荒川が4年連続で“水質ランキング”の1位。**
阿武隈川本川は下位にランク（Ｐ１参照）。
○ 平成17年に比べて**水質事故が7割増加**

【環境基準の満足状況】（ＢＯＤ、ＣＯＤ７５％値）

	観測地点数	満足地点数	満足している割合		環境基準超過地点
			Ｈ１８	Ｈ１７	
阿武隈川(県内)	１３	１３	１００％	１００％	

【水質事故発生状況】
・５１件（Ｈ１７：３３件）（東北全体の８％）